

令和8年度学校評価

本年度の 重点目標	(1) カリキュラム・マネジメント 【生活と将来につながる学びのある学校】 ア 個に応じた分かりやすい指導・学習環境の充実 イ 生活に根ざした一貫性のある学びの形成 ウ 将来につながる主体的・実践的な経験の充実 (2) スクール・マネジメント 【安心・安全を基盤とした学校】 ア 障害特性に応じた安全、防災指導の充実 イ 実態に即した危機管理、健康管理体制の徹底 ウ 人権尊重とチームによる安心できる学校づくり (3) スタッフ・マネジメント 【専門性を活かし、つながる学校】 ア 業務の効率化と協働体制の確立 イ 専門性の向上と共有 ウ 連携による働きがいのある職場づくり		
担当	重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	(1)ア (2)ア (3)イ	個に応じた学びと集団での学びが相互に生かされるよう指導内容や方法を工夫する。 「命を守る行動」を分かりやすく、安心感をもって身に付けられるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動においても一人一人が参加しやすい手立て（役割分担、発言方法の工夫、視覚的支援など）を留意する。 ・児童が学習活動に安心して取り組めるよう、具体的に単純な行動に絞り、肯定的な声掛けや事前の見通しを大切にしながら、段階的・繰り返し指導する。
中学部	(1)ア (2)ウ (3)イ	教育課程の実践を通して、個に応じた学びの場をつくる。 生徒の尊厳を大切に、安心して学ぶ環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践を振り返り、効果的な面や課題を把握しながら、教育課程ごとや学年で共有しながらすすめる。 ・部全体で人権に配慮した指導支援を共有し、職員全体で指導支援にあたる。
高等部	(1)イ (1)ウ (2)ウ	生徒の実態やこれまでの学び、進路状況を踏まえた、教育課程やコースを編成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任、主任会、学年会と連携しながら進める。 ・生徒の実態や身に付けるべき力を把握して進める。 ・これまでの枠組みにとらわれず、多様な意見がでるようにする。
教務部	(1)ア (1)イ	各部の教育課程の課題に取り組み、各学期に振り返り、改善を行う。 年3回教科会を開き、各部の状況を把握しながら教科書採択を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課程の実践をし、学年および担当教員へこまめに聞き取りを行う。 ・各教科会へ他校の教科書の使用状況・採択可能な一般図書等の情報を提供する。
進路指導部	(3)ア	進路に関する情報において、デジタル化を推進し、職員、保護者に情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校配信eメッセージを利用してチラシやパンフレット、進路だより等を職員、保護者へ発信する。 ・進路の希望調査等でFormsを活用する等、紙媒体以外の調査方法を検討する。
教育支援部	(3)イ	相談担当者の充実のために、複数の職員で相談業務にあたる。また教師の資質向上のために研修会を企画する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の相談業務に対して、10回以上を複数の職員で対応し、アプローチ法について校務部会で検討する。 ・教育支援に関する研修会を3回以上企画し、教師の資質向上を図るとともに校内支援にも還元する。
総務部	(3)ア	学期末に教室の備品・物品の確認、交換の機会を設けて状態を把握し、適切に廃棄、修理を行うとともに、購入計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室に配置している備品を示し、担当個所のチェックをしやすくする。 ・他分掌や事務室などと連携をとり、校内の備品・物品の保全や整理に努める。
生徒指導部	(2)ウ	児童生徒や教職員のいじめ防止の意識向上のために、いじめ防止を題材とした教育活動やいじめ防止基本方針の伝達を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、教職員を対象にいじめ防止基本方針の伝達を行う。 ・生徒会主体のいじめ防止啓発活動を全校集会で行い、いじめの定義やいじめにつながる行動、適切な関わりについて伝える。 ・年3回、生活アンケートや保護者への聞き取りを行い、いじめやその予兆を把握できるようにする。
保健体育部	(1)イ (3)イ	情報通信機器の利用時間、睡眠時間、朝食などの生活習慣に関するアンケート調査を行い、それに基に専門家からの現職研修を実施し、指導方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は障害に関する専門知識のある方に依頼する。 ・アンケート、現職研修、指導方法については、児童生徒の実態や本校の指導の現状等の情報を講師と共有し、打合せを十分に行う。
研修研究部	(3)イ	教員のニーズに応じた研修や研究を実施する。また、研修会の案内や校内研修の周知の仕方を工夫し、研修への積極的な参加を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを行ったり他分掌と連携したりして計画を立てる。 ・グループウェアやSharePointの職員配布資料を活用し、目に触れやすく、確認しやすいようにする。

情報図書部	(1)ア (3)ア	生徒用端末、教員用端末の活用について研修を年2回行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・BYOD端末の導入にあたり、使用環境を整え、ICT支援員と連携して活用法について研修を行う。 ・不足しているICT関連機器を購入する。
学校関係者評価を実施する主な項目		<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント ・スクール・マネジメント ・スタッフ・マネジメント 	